

うちの  
みんなで  
読んでね

## 浄土真宗とお盆

お盆の季節、テレビには帰省ラッシュやお墓参りなど各地の風景詩が映し出されます。では、浄土真宗の門徒として、そのみ教えとお盆のお迎え方についてどう考えたら良いのでしょうか？

「仏教」あるいは「お寺」と言うと、「亡くなった方を供養する」と言ったイメージが一般に強いようです。私たちの浄土真宗は、「念仏成仏これ真宗」と言われるように、今を生きるこの「私」が、仏法を聞くことによって救われお念仏を喜ぶ身となり、この世の縁が尽きると悟りの世界である浄土に往生して仏となるというみ教えです。親鸞聖人は「追善供養のために念仏したことはかつて一度もありません」と言われています。ちょっと意外に思われるかもしれませんが、これこそ仏教によって知らされる世界を簡潔に述べたお言葉と言えましょう。

自分だけの殻に閉じこもることなく、命あるものすべてを救うという如来の願いを通して、自分とあらゆるものの命を見、救いを見ておられます。それが阿弥陀如来の呼び声である「南無阿弥陀仏」のお念仏です。

浄土真宗における法要とは、この南無阿弥陀仏の呼び声をお讃えするとともに、その呼び声を私たち一人一人が聞かせていただく場なのです。ですからお盆の法要も先祖の供養などではなく、有縁の亡き方を偲びつつ、私をお救いくださる阿弥陀様のお徳を讃え、聞法する以外にありません。

よって、「精霊棚」を設けたり「迎え火」を炊くといったお盆独特のお飾りや風習は行いません。お仏壇には法事と同様に、お仏飯お餅、お菓子果物などを適宜お供えするとともに、打敷をかけて丁重なお飾りをするのが良いでしょう。

また、未だお念仏のご縁をもたれていない場合であっても、自らの命の行方がお浄土であるべきことに心をいたし、聞法生活を始める機縁としていただきたいものです。(孝雄)

如来さまの

如来さまのおはからいのまま

如来さまのおはからいのまま生きる

ありがたいこと

うれしいこと

山が崩れてもおそれない

川が逆行してもおそれない

(竹部勝之進 明治三八年福井県生まれ)

自分の考えや執われが小さく  
なれば、苦しみや争いも少  
なくなる。人生のいろんな出来  
事も、仏様からの与えられた  
仕事かもと引いて見る。ただ  
し、想定外の災害に遭っても  
そのように諦観して構えてい  
られるか、甚だ心許ない。

まことの信心の人とは

諸仏とひとしと

もうすなり

諸仏のお心と等しいとお讃めになる。よって「真実の信心の人を諸仏と等しい」と申し上げるのだ」とお答えになります。

ここでそもそも「信心」とは何でしょうか。念仏詩人の竹部勝之進さんに、「仏様から頂いた眼」と題する詩があります。

その眼はわが身の見える眼 ああ かたじけない かたじけない

(法蔵館発行『詩集 まるはだか』八二頁)

「まことの信心」とは仏さまの眼を頂戴して、私自身のありのままの姿を知らされることである、と詠われます。仏眼(仏智)を賜ることによって、わが身の分限を知り、愚かな凡夫の身のままに生きていくことができるのです。

「信をうる」とか「諸仏と等しい」というと、娑婆での悩み事がなくなったり、苦しみが消え失せたりすることのように思いますが、決してそうではありません。いま現在の自分に不平や不足を感じることなく、このままでよい、このままで尊い、という身の事実に気づかされるのです。

浄土真宗の信心とは、「煩惱のこの身がありがたい、かたじけない」と深く領かしめられることです。そして、その一見矛盾した世界に目覚めた人を、「まことの信心の人」と教示されるのです。(引用「真宗教団連合HP」)

◆このお言葉は、親鸞聖人が門弟の間いかけに返信されたお手紙の一節です。聖人は、どういう所以で「信心をえた人は如来と等しい」と言われるのかを尋ねられ、「阿弥陀如来の本願を信ずる心(信心)が定まるとき、撰取不捨の利益に恵まれる。この心が定まることを、十方の諸仏は喜ばれ、

教えて、お坊さん ⑮ 「死ぬって、皆不幸せじゃないの？」 .....

災害や事故で突然の危機に遭遇する、あるいは脳や心臓の急変で死に直面する…。そのとき当人は自らの命の終わりをわずかな時間で総括することに迫られる。驚きや悔恨や抵抗が混然となって、死を受け入れられるかどうかは誰しもその場に立たないとわからない。それは病気や老いの中で、ある程度の準備期間を与えられても同じかもしれない。

死は不幸、幸せに死んだ人などいない、と決めつける人はほぼ間違いなく今が不幸せである。もしくは、自分なりの死生観や信仰を育んでこなかったのではないか。せめて中年になったらとは言わないが、年配になってもそのようではあまりに人生寂しい。

幸せについてどう理解し作り上げようとしてきたかは、本人がどんな言い訳しようが、今までの人間付き合い、慕われてたのか疎まれたのかで明らかにされてしまう。つまり、人は結局生きてきたように死を迎える。「いろいろあったけど楽しかったよ」「叶わなかったこともあるけど悔いはない」「先に行かせてもらうね。みんなありがとう」と言い残して往かれた方もいる。そのような逝き方を見せられれば、見送る人にとっては仕合わせだ。

阿弥陀様の救いは臨終の善悪も五逆の罪も妨げにならない。どんな人生どんな命も等しく仏=覚者となる。自分のちっぽけな世界から広大無辺な智慧と慈悲の世界へと掬い取られる。その大きな安心(あんじん)が、短い娑婆を生き切る覚悟へと導くのだろう。

## 「四年ぶりの東北行き～仙台、岩手・陸前高田 その1」 ●●●●●●●●●●

何度も機会を伺いながら実現できずにいた東北の被災地再訪が、ようやくこの6月末に叶った。二泊三日で新幹線とレンタカーの、準備急ごしらえ一人旅である。以下、二回に分けて印象に残った点を記してみる。

◆仙台別院・東北教区ボランティアセンター  
・職員の吉田善征さんは、浪江町・常福寺さんのご門徒で元は米問屋。現地では農家の方も（全袋検査しているが）自分の田んぼの米は食わないという。



・宮城県北部の避難者の方々 30 名弱ほど集

まってお茶会。初めてこられた石巻出身のご夫婦らに話を伺う。日和山で、ボランティアたちが作業後に被災した風景を写真に撮っているのを見て「人の不幸を撮らないで！」と大変憤慨したとのこと（今は収まっているが）、ちょっとどきとさせる。

・別の年配の奥さんは、津波襲来の現場を（多分日和山から見て）今でも思い出すし夢に見たりする。

・会の副代表の女性、津波被災した家には重く頑丈な防音サッシがあったが、値打ちものの仙台筆筒とともに泥棒に取られた。また、震災後の葬儀の際には、戒名料を少し安くしてくれたが普段は普通車 1 台分だったとか。

◆岩手県・陸前高田市

・10m 以上かさ上げされた旧市街地はだだっ広い工事現場、砂埃がすごい。いくつか大きな店ができていて、少しずつ人が集まる商業地の形が見え始めた、というところだろうか。海岸沿いには防潮堤らしきものが結構長くできている。



高台のあちこちに古い家と混在して自力再建の新築の家もちろほら建っている。山間部と平地を結ぶ幹線道路が避難道路として何本か整備されたが街灯が追いつかず、死亡事故も起きたという。



・懐かしの普門寺。境内前の五百羅漢像も久しぶり。熊谷住職と再会してしばし歓談。奥様はあの津波から追われながら逃げ帰って、まだ一人では海にいけないとのこと。本堂で手を合わさせてもらう。身元不明のお骨もまだ 11 柱ある。

・本願寺派の傾聴活動拠点「とまり木」の西條さん宅をのぞく。彼らの会の活動現場は災害公営住宅訪問に移っていて、中には長屋のような仮設住まいと違い、団地の部屋の玄関扉が閉まるのが、まるで檻に入れられたようだとこぼす方もおられる。（続く）

オススメ!

## 「宇多田ヒカル／道」

◆最近、私がほぼ毎日のように聞いている曲です。普段は全くポップスを聞かない私ですが、これはある歌番組で一度聴いて、「すごい！」と遅ればせながらはまってしまいました。

この歌は亡くなったお母さん（歌手・藤圭子）を思って作られた曲だそうです。私はそうとは知らず、この曲を聴き、「これは阿弥陀様のことだ！」とってしまいました。「若いのに、どうしてこんな歌詞が書けるのか！？すごいな〜！」と。

よく阿弥陀様の心は、子を思う母心と例えられることがあります（なので、私が間違えたのも仕方ないことですね）母親の存在とは、子供にとっていくつになっても、大きな大きな存在です。私が感動したのは、宇多田ヒカルがこの歌のように母親を受け止めたという事です。

そしてこの歌は、私の阿弥陀様に対する思いを表してくれて、阿弥陀様をいつもこのように思わせていただきたいという願いもあり、とても大切な一曲となりました。皆さんはどう感じますか？楽曲も歌い方もすごくいいですよ。ぜひ聞いてみてください。 (C)

\*当時 33 歳、6 年ぶりの復帰作、2016 年 9 月発売のアルバム「Fantôme」（気配）に収録。

私の心の中にあなたがいる  
いつ如何なる時も  
一人で歩いたつもりの道でも  
始まりはあなただった  
It's a lonely road (それは孤独な道)  
But I'm not alone (だけど独りじゃない)

どんなことをして誰といても  
この身はあなたと共にある  
一人で歩まねばならぬ道でも  
あなたの声が聞こえる

(中略)

どこへ続くかまだ分からぬ道でも  
きっとそこにあなたがいる

(歌詞一部抜粋)



実践!

## 肩の荷がおりの気功 ⑧～肩まわし

前に寄せた両肩がすっと上がって、後ろに寄せてふーっと下げる。反対回しも（後ろから前）。肩甲骨が開いたり閉じたり上がったたり下がったり。首や腰も連動してくゆらず動き。肩の荷を下るして自由に楽に。背筋がすきと伸びたら OK。by NPO 法人気功協会



▼西日本豪雨災害では二百名以上の方が犠牲になりました。被害に遭い、酷暑の中で生活再建を余儀なくされた方々には心が痛みます。  
福島子供サマーキャンプが今年も無事終了。今  
は大汗で過ごした一週間がキラキラして見えます。  
(八月二日の福井新聞参照)  
オウム事件の死刑囚らが  
刑を執行されましたが、今  
も何か(成長、安全)「神話」  
に洗脳されている私たちの  
ような気もします。  
暑い日が異常に続きます  
ね。熱中症と冷房病には是非  
ご注意ください。(S)

